○夏期講習申し込みについて（３年生）

３年生向けの夏期講習の予定一覧が発表になりました。講座内容をよく確認の上、期日までに申し込みを行ってください。

申し込みに際しては以下の点に注意。

① 欲張ってとりすぎない

予習や復習が必要になりますから、一日に２講座程度がよいでしょう（やむを得ない場合でも３講座）。夏期講習をとおしては１０講座ぐらいが限度だと思います。

② 学習の主体はあくまで自分にある

皆さんが自分で夏休みの学習計画をたて、その中に夏期講習を上手に利用するという考え方がいいでしょう。受身の学習ではなく主体的に学習計画を考えましょう。

③ きちんと出席する

皆さんの出席予定に合わせて先生方はプリントの準備をしています。一度出席すると決めたら最後まできちんと出席しましょう。

④ 生活リズムを崩さないためにも

目覚まし時計代わりに使うのもアリです。

⑤ 先生によく聞く

講座内容などが分かりにくい場合は担当の先生に直接聞いてから申し込みましょう。勝手な思い込みで申し込むと、後々お互いに辛くなります。

○進路室ルール

３階に「進路指導室」、「進路指導資料室」が並んであります。（さらにその廊下奥に「進路室」がありますが、ここは３年生の担任の先生が使う学年部屋です。）

「進路指導室」には進路部の先生方が常駐しています。聞きたいこと、相談したいことがあればいつでも来てください。

「進路指導資料室」は別名「赤本部屋」。大学の過去問や、さまざまな資料が閲覧できます。出入り自由。廊下の棚のものも含めて、赤本は赤本ルールに従って借りられます。それ以外の資料は進路指導室の先生に相談してみてください。３年生はもちろん、２年生、１年生もどんどん利用してください。

奨学金・教育ローンについて

１階経営企画室の掲示板、および３階進路指導室の掲示板に奨学金関係の連絡が掲示してあります。

今はちょうど「**日本学生支援機構**」による大学生向け奨学金の予約申し込みの時期です。３年生には全員にプリントも配布されています。よく読んで必要な人は手続きを行ってください。「**国の教育ローン**」のパンフレットも届いています。進路指導室前の廊下にありますので自由に持ち帰ってください。

先輩からの言葉

寝ても覚めても建築

原田将史（48 回生）建築家

Niji Architects 一級建築士事務所　代表

新宿高校を卒業して20年以上が経ち、濃密な年月が経った今、高校時代の記憶もだいぶ薄れてきたところで、遠い記憶を思い出しながら書こうと思います。

皆さんはどれくらい『建築家』という職業をご存知でしょうか。建築という大きな括りの中には多くの関連する事柄があり、専攻も職業も多岐に渡ります。その中でも、建築家という職業は広義でありますが、主には建築士資格を有し、意匠・構造・設備等の建築設計分野の中でも意匠設計を主として携わり、建築を人生の基本として生きている人の職業を『建築家』というものであると私は考えます。極端に言えば、寝ても覚めても建築、仕事もプライベートも建築、一生建築、そんな人生を送る人のことを指すと思っています。

余談ですが、『設計士』や『設計家』などしばしば耳にしますが、実はそのような資格や職業は存在しません。資格としては『建築士』、職業としては『建築家』もしくは『建築設計者』です。

私が漠然と『建築家』を志したのは中学生の頃でした。ただ単純に、知的にオシャレに有名になりたい。それも自分の得意な理数系科目やものづくりが活かせる職業で。そんな思いを親に告げると『建築家』という職業があると教えてくれました。住宅から超高層ビル、街や都市まで想像し、かたちにする。そして、かたちにしたものが、人の生活と共に長い年月をかけて歴史として残っていく。人と芸術や文化が密接にかかわる、なんてすてきな職業だと感じました。そこから『建築家』になろう、なるためにはどうしたら良いのかと20年近くずっと考え続けることになりました。

新宿高校を選んだ理由は、建築家になるためにはまず高校生活を大都会で送り、都市を肌で感じなければならないと思ったからです。

新宿高校での生活は本当に自由で、硬式テニス部と軽音楽部で部活動に明け暮れ、友と新宿の街で遊び、移り変わりゆく新宿の風景を目の当たりにし、人と都市とが密接に関係していることを肌で感じていました。思い出す風景は色々ありますが、特に思い出に残っている建築的な場所があります。校舎（皆さんにとっては旧校舎になりますが）の1階にあったピロティです。学校生活の中心にあり、登下校に通過し、部活の筋トレで使い、正門と校庭との間の風の通り道であり、恋愛の告白の場になったり、卒業式で後輩に第二ボタンをあげたり。

おかげで思い描いていた高校生活を送ることはできましたが、先に書いたように、つまりは高校生活ではほとんど受験勉強はしませんでした。

私は建築家を多く輩出している大学だけを選んでいたため、大学受験に2浪しています。現役と1浪目の時は理工系の建築学科を受験し、2浪目で初めて美術大学の建築学科受験に切り替えました。日本の建築学は、地震大国ということもあり工学からの発展が強く、建築を専攻できる大学の多くは理工系の大学・学部です。私は一般的なことしか知らなかった為、初めは理工系受験のみしか考えていませんでした。

しかし、なかなか理工系の大学受験が上手くいかず1浪を失敗した時に、たまたま書店で手に取った『建築家への道』という本のなかで、美術大学の建築学科という選択肢があることを知り、それまで私には無縁だと思っていた美術大学に関していろいろ調べるようになりました。美大出身でも、建築家の方が多くいることを知りました。美大の建築学科は実技試験もあるものの、私には最も適している受験科目であることも分かり、イチかバチか思い切って2浪目で美大受験に舵を切りました。選択は正しく、2浪目にもかかわらず美大の受験勉強を楽しむことができ、希望していた武蔵野美術大学に入学することができました。

大学では、4年間建築漬けの毎日でした。一般的な大学生のイメージとは大きく異なり、建築学生はほとんど暇がありません。建築設計の授業が中心となり、そこで出される設計課題を四六時中考え続け、作品を作り続ける。これは美術大学にかかわらずどこの大学でも変わらないと思います。さらに、美術大学の建築学科では、絵画や彫塑などの芸術の実習授業があり、デザイン論などデザインに関する授業もあります。設計課題の作品は4年間のうちに10数作品になりますが、必ず教授・講師陣に講評を受け、評価が良かったり悪かったり、一喜一憂の繰り返しでした。建築学科の同期たちは長い時間一緒にいることもあり、良き友であり、良きライバルでもありました。日々刺激を与えあいながら、共に成長をしてきた仲間です。

大学4年生になると就職活動をするのが一般的かと思いますが、私が希望していた『建築家』と呼ばれる代表がいるアトリエ系設計事務所の多くは、仕事の状況に応じて必要な時に求人を行うことが一般的であり、大学卒業前後での就職活動となります。さらに、私は卒業後すぐに就職はせずに、ヨーロッパに本物の建築を見に行きたくなり、6か国を周る一人旅をしています。帰国後、就職活動を始め、大学を卒業した年の9月に就職をしました。

私が修業時代に勤めていた設計事務所は、国内外の多くの賞を受賞しており、テレビ・書籍・雑誌・ウェブメディアなど多くに露出している手塚貴晴さん・手塚由比さん夫妻が代表を務める手塚建築研究所です。そこで10年間建築家になるべく修行を積み、2012年に独立し自身の設計事務所を構えました。

現在、独立から5年が経ち、新築やリノベーションの住宅・オフィスビル・飲食店舗・物販店舗・運動施設・保育園などなど自身の設計作品が増え、一級建築士資格を取得し、大学で講師をし、地方の設計事務所の顧問をし、寝ても覚めても建築の人生となった今、やっと駆け出しの建築家になれたと感じているところです。中学生の時に思い描いた夢の「知的にオシャレに有名になりたい」はまだ達成されていませんが、大学に入って建築の世界に入ってから現在まで建築を通して人生の多くの事を学び、日々想像している建築が実際に形になり、そこで人々の生活が営まれ、ずっと建築を考え、建築漬けとなれている自分がどれだけ幸せなことかと思うと、夢に向かってまだまだ頑張ろうと、一生頑張り続けるだろうと思う今日この頃です。

一般的な人生のレールには乗っていない、自分なりの道を選択し歩んで来られたのは、やはり新宿高校での生活が今に活きていると気が付きます。要所で、人生の選択をできるようになったのは、新宿高校の自主・自律の教育が大きく影響していると思います。自分で考え、あらゆる選択肢から判断する。または自分で道を切り拓く。そんな生活を送ることを許容してくれた新宿高校は、私にとって今も昔もかけがえのない存在です。

（朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）